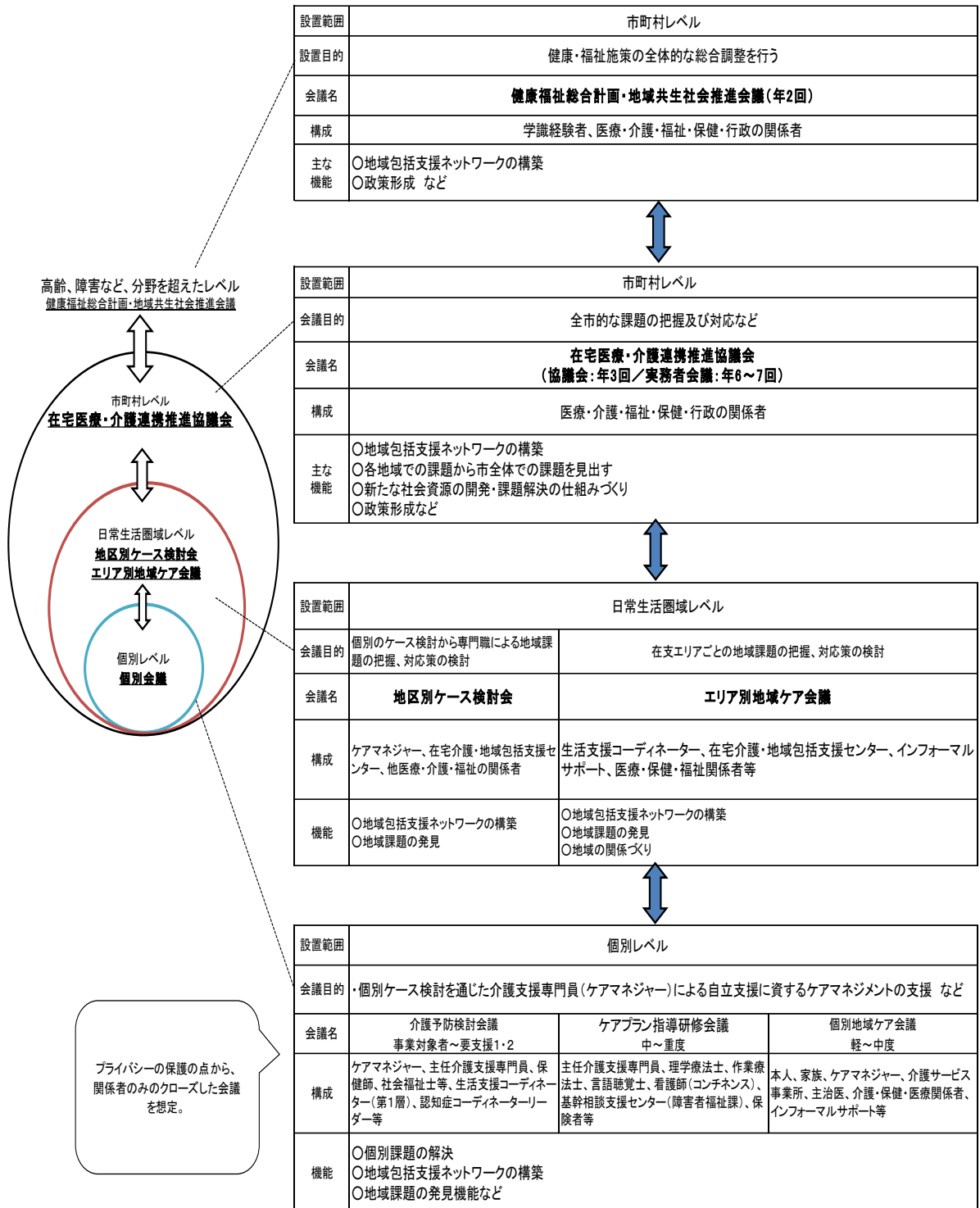


令和3年度上半期基幹型及び在宅介護・地域包括支援センター業務報告

5-2 地域ケア会議推進事業

(1) 武蔵野市における地域ケア会議の体系図



(2) 個別地域ケア会議の開催

個別・エリア地域ケア会議実践報告書

【ゆとりえ 在宅介護・地域包括支援センター】

第 1 回

開催日時	令和3年9月24日（金）14時～15時										
会場	マンション 集会室										
テーマ	認知力の低下により昼夜関係なく近隣に助けを求める方への支援 ～マンション住民同士の見守り・支え合いの体制を検討する～										
機能	■個別課題解決 ■ネットワーク形成 □地域課題発見 □地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	本人	家族	民生児童委員	ケアマネジャー	介護事業者	医療関係者	行政	その他	在宅介護・地域包括	基幹型地域包括	合計
参加に○			○	○	○			○	○		13
人数			2	1	1			6	3		
事例概要	80歳代女性、要介護2。平成25年に夫他界後、独居。平成29年の独居調査で、必要な郵便物の選別や財産管理が難しくなっている様子がみられ、在支・包括や関係機関に関わるようになる。半年に1回程度、本人から関係機関へ電話相談が入り対応していたが、今年になり同マンション住民に対して、昼夜問わず体調不良や被害的な訴えが多くなり、対応に苦慮していることがわかってきた。介護保険新規申請を行い、介護保険サービス利用開始となる。マンション住民は本人への対応に負担感がある。在支・包括等の相談機関に連絡したものの、先がみえてこない事から行き詰まりを感じている。										
事例の課題	① 本人は自身が納得できることしか受け入れず、支援者や住民に対して被害妄想が出る。 ② 同じマンション住民として支援したいが、どこまで介入したらよいかわからない。										
検討結果	① 本人の訴えは、体調不良や銀行関係の手続きや経済的なことが多い。被害的に捉えるため、いつマンション住民とトラブルに発展するかわからない事を踏まえ、マンション住民が対応に困った時は、在支・包括が相談窓口となることを確認する。 ② これから起こり得る本人の困りごとに対し、マンション住民が介入できる範囲はどこまでか、その都度、在支・包括と相談することで、マンション住民の不安を軽減する。										
事例から見た地域の課題	マンション住民同士の見守り・支え合いの体制づくり （マンション住民と関係機関の連絡・支援体制の構築）										
地域ケア会議後の状況	状況確認日 令和3年12月24日（3ヵ月後） 地域ケア会議後、マンション住民は相談先が在支・包括と明確になったので安心した様子ではある。本人の被害妄想の対象が在支・包括の担当職員に及んでいるので在支・包括はどのように介入したらよいか、在支・包括内で再検討をしている。										

個別・エリア地域ケア会議実践報告書

【 吉祥寺本町 在宅介護・地域包括支援センター】 第 1 回

開催日時	令和3年6月25日（金） 13時30分～14時30分										
会場	吉祥寺本町在宅介護支援センター										
テーマ	若年性アルツハイマー型認知症と向き合い 前向きに生きようとするBさんの誇りを取り戻すには										
機能	☒ 個別課題解決 ☒ ネットワーク形成 ☒ 地域課題発見 ☐ 地域づくり・資源開発 ☐ 政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児 童委員	ケアマネジャー ー	介護事 業者	医療関 係者	行政	その他	在支包 括	基幹地 域包括	合計
参加に○			○	○	○	○		○	○	○	
人数			1	1	1	1		5	3	1	13
事例概要	50歳代の女性、独居。就労していたが、5年前より物忘れの症状が顕著となり昨年3月に退職。同年12月には近隣の郵便局や仕事仲間の知人から物忘れが心配と在支・包括に相談。多摩若年性認知症総合相談支援センターとも連携しながら支援が開始となる。今年2月には医療機関で検査を行い「若年性アルツハイマー型認知症」と診断結果を告知。本人はそのことでショックと共に憤りも感じていたが「自分を支えてくれる人達に感謝の気持ちを忘れない」と自分自身の変化に不安を抱えながらも、前向きに生きようと支援者達に心を開く努力をしている。										
事例の課題	① 本人の認知症に対する受容と生活課題の解決に向けた支援をどのように行うか。 生活全般の状況把握と本人を取り巻く周囲の方々の若年性認知症に対する理解。 ② 今まで続けてきた活動や楽しみを続けるためにはどう支援したらよいか。 ③ 本人が活動出来る社会資源は何があるか。										
検討結果	① 在支・包括が支援の核となり、生活状況の把握と情報の統合を行う。そして、医療や支援者と状況改善に向けた対応を考えた。 ② 活動や楽しみを継続出来るよう関係者間で支援体制を確認し合った。 ③ 本人のニーズを確認しながら、主体的に過ごせる場所を見つけ繋いでいく。										
事例から 見えた地 域の課題	① 医療と福祉・地域の連携強化。まちぐるみの支え合いによる支援体制づくり。 ② 若年性認知症について、理解を深めるための啓発活動。 ③ 若年性認知症に対応できる社会資源の発掘と立ち上げに向けての支援。										
地域ケア 会議後の 状況	<u>状況確認日 令和3年9月25日</u> ・介護保険外のデイサービスに毎日来所し、職員の声かけで気に入ったプログラムに参加。知人も本人の興味がありそうなイベントがあると一緒に出かけてくれている。 ・権利擁護については、本人と一緒に手続きを行い成年後見制度の活用となった。										

個別・エリア地域ケア会議実践報告書

【 桜堤ケアハウス 在宅介護・地域包括支援センター】

第 1 回

開催日時	令和3年8月31日（木） 14時～15時										
会場	東京こころテラス（桜堤2-7-23）										
テーマ	集合住宅に居住する高齢者の安否確認を振り返り、それぞれの関係機関との連絡や連携の仕組み作りと今後の課題について考える。										
機能	☒ 個別課題解決 ☒ ネットワーク形成 ☒ 地域課題発見 ☒ 地域づくり・資源開発 ☐ 政策の形成										
参加者	本人	家族・親族	民生児童委員	ケアマネジャー	介護事業者	医療関係者	行政	その他	在宅介護・地域包括	基幹型地域包括	合計
参加に○			○	○			○	○	○		
人数			1	1			1	2	3		8
事例概要	80歳代後半の男性、集合住宅に独居。令和3年4月にマンションの駐輪場で転倒しているのを、集合住宅の職員が発見し自宅に送り届け、在支・包括に連絡をくれた。本人の状態は、コミュニケーションは可能だが、顔色も青白く脱水・低栄養状態が疑われた。また下肢筋力低下がみられ転倒リスクが高い様子が見られたため、集合住宅の管理事務所の職員等それぞれが、それぞれ個別にちょっとした支援をしていた。在支・包括の職員の関わりをきっかけに介護保険申請を行いサービス利用等の支援体制づくりを行った。										
事例の課題	① 独居高齢者の方へのアプローチをどのように行っていくか。 ② 独居高齢者が地域で安心して暮らし続けるには地域との関わりが安心感になるのではないか。										
検討結果	① 支援が必要な事態になった時には、在支・包括に連絡を入れることをあらためて周知。まずは相談できる先があることを高齢者自身だけでなく地域にも知ってもらう必要がある。 ② 地域とのつながりによって、支援につながったケースだった。地域の中に何らの参加できる場があると地域の中でつながりができるのではないか。										
事例から見えた地域の課題	① 介護にならない時から相談できる先を高齢者自身にも把握しておいてもらう必要がある。 ② 高齢者自身がSOSを出せなくても周囲から心配だと相談できることでいち早く支援につなげられるケースであったことから、地域のコミュニティの場をつくることも必要である。										
地域ケア会議後の状況	<u>状況確認日 令和3年11月</u> 高齢者自身に地域とのつながりを持つことの大切さを知ってもらい、身近な支援者になっても行うことができるように以下の講座を開催した。 令和3年11月30日 テーマ「ひとり暮らしの備えについて」 会場：テンミリオンハウスきんもくせい 参加者：10名										

(3) エリア別地域ケア会議の開催

個別・**エリア**地域ケア会議実践報告書

【吉祥寺本町 在宅介護・地域包括支援センター】 第 1 回

開催日時	令和3年5月28日（金） 13時30分～14時30分										
会場	吉祥寺本町在宅介護支援センター										
テーマ	まちぐるみでフレイル予防に取り組もう！ - Part 2 -										
機能	□個別課題解決 ■ネットワーク形成 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	福祉の 会	サロン	民生児 童委員	主任ケア マネジャー	介護事 業者	医療関 係者	コミセ ン	その他	在宅介 護・地 域包括	基幹型 地域包 括	合計
参加に○	○	○	○	○		(書面)	○	○	○	○	31
人数	3	3	8	3		(2)	1	5	5	3	(33)
事例概要	新しい生活様式として、オンライン（ZOOM）会議を利用することで、地域活動を担う住民同士が同時に会議に参加することができる。そして地域課題について他団体の人々とグループワークを通じて意見交換を行い、具体的な取り組みへと発展させる										
エリアの 課題	① フレイル予防について、地域全体の意識の向上を図る。 ② 住民が主体的に地域で取り組むことができるフレイル予防の具体的な内容と、その実現に向けた取り組みを考え実行する。 ③ 地域住民同士による、地域のグループ（各団体の枠）を超えたつながりを作るために円滑な情報交換を実施する。										
検討結果	① 昨年度に引き続き口腔機能の向上や栄養等のフレイル予防の講座を企画・実施する。 ② 地域のソーシャルディスタンスを保つことができる具体的な場所や、そこで実施する体操や昔遊び、少人数での散歩の会など具体的な案が出された。 ③ 参加者全員から、次回のオンライン会議にも参加したいとの意見があった。今後も定期的にオンライン会議を開催して情報・意見交換を行い、地域のグループ（各団体の枠）を超えたつながり作りを推進していくことになった。										
今後の 課題	① 地域住民がフレイル予防のために学びたい活動内容をさらに検討する。 ② 会議で候補となった場所で目的にあった活動の実施、併せてその活動の担い手についても検討する。 ③ オンライン会議の開催頻度や、内容（オンラインで認知症サポーター養成講座やアドバンス・ケア・プランニング、エンディングノートの活用等）を検討し実施していく。										
地域ケア 会議後の 状況	状況確認日 令和3年9月末日 オンラインで月1回実施。 ・9月13日栄養講座「フレイル予防と食について」講師：食品企業職員/参加者18名 ・9月24日運動講座「腰痛予防セミナー」講師：スポーツジム運動訓練指導員/参加者4名 ・9月24日運動講座「健脚セミナー」講師：スポーツジム運動訓練指導員/参加者6名										